

- 1 主題名 よりよい自分を目指して
資料名 「千葉ホークスの選手たち」(自作映像資料)
内容項目 1－(2) 希望・勇気・努力

- 2 主題について

- (1) 主題設定の理由

高学年の内容項目1－(2)は、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」となっており、低学年の1－(2)「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。」、中学年の1－(2)「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」から発展する。

低学年では、まず自分でやるべきことをしっかりと行うこと、中学年になると自主性を発揮して、自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げることを目標としている。そして高学年になると、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気を持って取り組み、着実に前進していこうとする強い意志と実行力が求められている。社会には様々な立場や状況であっても、夢や目標のために勇気や希望をもって強く生きている人たちが多くいる。様々な生き方への関心を高め、希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さについて考えることが必要である。

この時期の子どもは、それぞれに高い理想を追い求める時期だといわれる。しかし、自分のことを客観的に見つめ、自分に自信がもてなかったり、夢と現実の違いを意識したりする時期だともいわれている。子どもたちを取り巻く環境は、変化し続けている。これから子どもたちが社会の中で自立して生きていくには、自己を確立し揺るぎない信念をもつことが必要となってくるだろう。自分のことを客観的に見つめて自分の弱さと向き合い、失敗を恐れずにそれを乗り越えようとする心情をはぐくみたい。

夢や目標をもつと、それを叶えるためには努力することが必要となる。努力をしても必ず報われるとは限らない。しかし、夢を叶える人は必ず努力しており、努力なしに目標を達成することはあり得ない。そして夢や目標に向かってひたむきに努力している人たちの姿は、とても生き生きとしている。また、努力をしても結果が出なかったときには、努力が大きければ大きいほど、ショックを受けたり周りの人たちからの反応が気になったりする。だからといって努力することを怠って達成できるようなものは、目標としてふさわしくない。そして、大きな目標に向かってこつこつと努力していくことは、日々の生活を豊かにする。自分なるべく失敗しないようにと小さな目標を掲げるのではなく、失敗を恐れずに、周りの目を気にせずに希望や勇気を持ち、それに向かってひたむきに努力しようとする人間性を育てたい。

(2) 子どもの実態 (男子17名、女子19名 合計36名)

○今、目標はありますか。

ある 33人 (92%) ない 3人 (8%)

○「目標がある」と答えた人は何ですか。

また、その目標を達成するために、今やっていることは何ですか。

〈目標〉

〈今やっていること〉

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| ・受験をして志望中学に合格 (10人) | ・時間を決めて勉強する (6人) |
| | ・学習塾に行っている (4人) |
| | ・基礎をおさえて応用問題にチャレンジしている (1人) |
| ・英検2級に合格する (2人) | ・単語を覚える (2人) ・毎日勉強する |
| ・英語をしゃべれるようにする | ・英検を受けるための勉強をしている |
| ・勉強でやっているテキストを終わらせる | ・毎日テキストをやっている |
| ・テストで全部100点をとる | ・毎日勉強している |
| ・算数と理科を得意にする | ・毎日問題を解く |
| ・社会が苦手なので基本を覚える | ・教科書やドリルで復習している |
| ・もっといっぱい本を読む | ・図書館や本屋に連れて行ってもらっている |
| ・そろばん4段をとる | ・苦手なことを練習している |
| ・スキーの検定で2級をとる | ・トレーニングをしている |
| ・バスケの大会で1位になる | ・練習を1つ1つ真剣に取り組んでいる |
| ・プールの飛び込みをきれいにする | ・休みの日などに練習している |
| ・毎日元気に登校してたくさんの人としゃべる | ・体調管理をしてみんなと関わる |
| ・やらなくてはならないことをシミュレーションし、自分を管理する | ・今日・明日やるべきことを考えている |
| ・委員長としてやるべきことをやる | ・自分でできることをする |
| ・卒研を計画的に進める | |
| ・手品をいっぱいできるようにする (卒研) | ・本やDVDを見て練習している |
| ・忘れ物をしないようにする | ・朝チェックをする |
| ・なるべく手を挙げる | ・意識している |
| ・できるだけ自分の意見を尊重する | ・自分の考えをもって手を挙げる |
| ・もっと自分の意見を言えるようにする | ・自分の考えをもつようにしている |
| ・毎朝早起きして犬の散歩をする | ・夏休みも早起きをした |
| ・整理整頓をする | |
| ・楽しく充実した日々を過ごす | ・怒られないようにする |
| ・将来の夢 (モデルになる) ために研究 | ・モデルのブログを見る |

○将来の夢はありますか。

ある 31人 (86%) ない 5人 (14%)

○将来の夢は何ですか。

- ・イタリアのコーディネーター ・科学者 ・キャビンアテンダント ・声優
- ・ヴァイオリンの先生 ・ペットに関わる仕事 ・イラストレーター ・アニメーター
- ・宇宙飛行士 ・陸上選手になって東京オリンピックに出る ・任天堂に就職
- ・漫画家 ・設計図をかく ・羽田の管制官 ・JALのパイロット ・バスケの選手
- ・ピアニスト ・ファッションデザイナー ・本屋 ・モデル ・科学者 ・理学療法士
- ・お父さんとお母さんのやっていたホテル関係の仕事に就くこと
- ・志望校に合格して、パパの手伝いをしたい
- ・生活に便利なものを作る人 ・虫の研究をする人 ・ロボットについて研究したい (2人)
- ・千葉の指定強化選手になる (アルペンスキー)
- ・自分の家を持って、素敵な庭を造って犬を飼う
- ・サラリーマンになり、安定した収入を得る ・就職する ・幸せに暮らす
- ・安定した仕事に就く ・名の通った会社に入る
- ・いい職業を見つけて金を稼いでいい暮らしをしているようになる ・お金持ち
- ・私立の制服を着る

○夢のために、今やっていることはありますか。

- ・特になし (7人)
- ・家庭の手伝い ・社会に出てもやっていけるように、今の社会で求められているものを学ぶ
- ・機械について関心をもっていく ・イタリア語と英語の勉強 ・ていねいな言葉づかい
- ・数学の勉強 ・理科や算数の勉強 ・勉強をしっかりとする (4人)
- ・夏も冬も一生懸命にトレーニング (スキー)
- ・仕事について調べている ・ヴァイオリンの練習、コンクールに出ている ・ピアノの練習
- ・必死に努力 ・たくさん絵を描く ・友達と仲良くする ・漫画の練習 (2人)
- ・ときどき走る ・植物について教えてもらっている ・遊び道具を自分で作る
- ・ロボットプログラム体験に行く ・いろいろな種類の本を読む
- ・モデルのブログを見たり雑誌を読んだりしている ・科学の本を読む

本学級の子どもたちは、自分のことを客観的に捉えることができる子が多い。自分の得意なことや苦手なことをわかっていて、どの部分を改善すれば自分をよりよくしていけるかわかっている。そのため、前月の反省をもとに月ごとに自分の目標を立てることができる。アンケート結果を見ても、ほとんどの子どもたちが目標をもって生活をしていることがわかる。しかし目標を立てるに当たって、なるべく自分が達成できるような低い目標を設定している子が多いように感じる。月ごとにいくつかの反省点を挙げた中でも、すぐに改善できるようなものに着目して目標としている。アンケート結果も進学についての目標以外では、具体的な目標を掲げている子は少ない。また、教師からやや困難な課題を投げかけると、すぐに「無理」という言葉が返ってくる。課題に対して最初から自分の限界を作っているようでは、これから難しい問題に直面したときに自分で乗り越えるこ

とはできない。

5年生の道徳に学習において、競泳の北島康介選手の生き方をもとに、目標を立ててそれに向かって努力していくことの大切さについて学習した。学年で「有言実行」を掲げ、5年生から継続して個別の目標を立てている。しかし、毎日の帰りの会において生活目標や個人目標についての振り返りをしているが、それを達成できたという子は3分の1から半分程度しかいない。目標は立てているものの、それを実行しようと努力しているように見えない子も未だにいる。

また、半数以上の子どもたちが中学受験を考えており、学習塾に通っている。進学を希望する中学校の試験に合格することが目標となっている子が多い。しかし、進学する中学校は人生の通過点に過ぎない。「こんな仕事に就きたい」というような将来の夢や「このような生き方をしたい」というような将来の理想像がなければ、何に向かって努力していけばよいのかわからないであろう。将来について夢や理想像をもつことの大切さを考えられるようにしたい。また、子どもたちが将来の夢に向かっていく中でも、これからさまざまな問題に直面することがあるだろう。そのときに問題を乗り越える力を養えるようにしたい。

社会にはそれぞれの立場で環境の中でも、夢や目標に向かって希望や勇気をもってひたむきに努力している人たちが多くいる。失敗しても挫折しても乗り越えようとする強い意志をもち、何事にも一生懸命に努力する子どもを育てたい。

(3) 資料について

本資料は、千葉市の車椅子バスケットボールのチームである「千葉ホークス」を取り上げたものである。創部36周年を迎え、「内閣総理大臣杯争奪 全国車椅子バスケットボール大会」において11回の全国優勝を成し遂げた国内トップチームであり、日本代表として活躍する選手も在籍している。

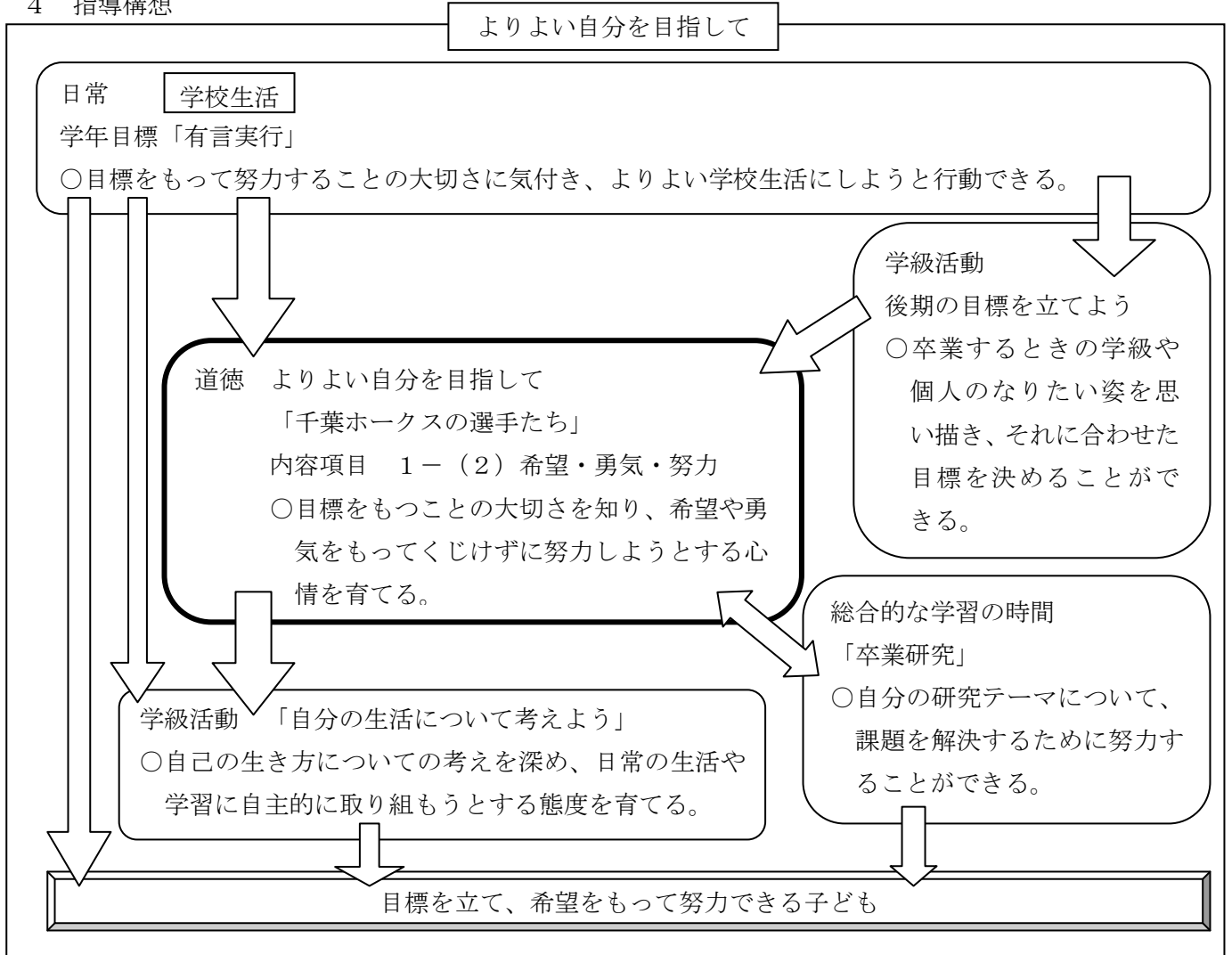
本時では、千葉ホークスの選手たちの練習風景とインタビューを映像にして、子どもたちに見せる。練習風景は、それぞれの仕事を終えて体育館に集まってくるころ、長時間に及ぶ走り込みや実際にゲーム形式の練習をする場面である。息を切らせて走り込みをし、自分を追い込んでいく姿や車椅子同士でぶつかって倒れても自力で椅子に戻り、プレーを再開する姿など、選手たちが全力で練習に取り組む姿は、「努力する」ということを具現化している。インタビューは「車椅子バスケットを始めた理由」「車椅子バスケットというスポーツの印象の変化について」「車椅子バスケットに出会うまでと、出会ってからで生活のちがいを」ということを伺う。

千葉ホークスの選手たちが、自由に動き回るための手段として使っているのが車椅子である。ただ移動するだけでも苦勞するにも関わらず、バスケットボールをしている。そして、バスケットボールをしている様子は真剣そのものであり、妥協することは一切ない。自分の状況に甘んずることなく努力している選手たちの様子を見て、人は誰もが目標をもって頑張ることで輝けることを子どもたちが感じ取れるであろう。そして、希望や夢をもって努力する大切さを学べるのではないかと考える。

3 ねらい

○目標を立てて、希望や勇気をもって努力しようとする態度を育てる。

4 指導構想



5 研究の視点との関連

道徳的実践意欲を高めるための指導の手立てや工夫

○希望や勇気をもって努力しようとするための指導構想の工夫

千葉ホークスは、パラリンピックの選手も有する一流の車椅子バスケットボールチームである。チームや選手たち各自でより高い目標をもって、練習をしている。ほとんどの選手はそれぞれの仕事があり、仕事が終わった後に厳しい練習に打ち込んでいる。忙しい生活の中でも時間を作って、自分に厳しくできる心の強さがある。そんな心の強さを子どもたちに感じ取ってほしいと考え、千葉ホークスを取り上げた。

しかし、子どもたちと選手たちの生活や生き方、考え方には大きな違いがあり、千葉ホークスの話を聞いただけでは、伝わりにくいことが多いだろう。そこで、子どもたちが関心をもって深く感じ考えられるように、練習時の様子や植木選手がホークスと出合ってからの変化についてのインタビュー、子どもたちへのメッセージなどの映像を見せることにした。

また、前時の学級活動では卒業するときの理想像を考えて後期の目標を立てる活動をし、次時の学級活動では自分の生活を見直せるようにする。卒業までにどのような自分になりたいかを考えて立てた目標が的確かどうか考えたり、目標に対して現在の自分のできばえについて考えたりする活動をする。これまでの自分の考え方や生活を見つめ直し、目標の修正や目標達成のために自分がしていくこ

とを考えていくことでよりよい自分を目指した生き方について意識づけていけるだろうと考える。

○自分の考えを深めるために既習内容と関連付けた資料選定の工夫

子どもたちは5年生の総合的な学習の時間で、福祉について学習をしてきた。視覚・聴覚障がいや妊婦、高齢者の方々の疑似体験、調べ学習を通して、みんなが幸せに生活できる社会について考えた。その際に、道徳でも内容項目2-(2)思いやり、3-(1)生命尊重で障がいについて扱った資料を使って授業をし、より理解を深めることができるようにした。子どもたちが実際に障がいをもった方々と学校で交流したことはないが、今回の資料は既習内容と結び付けやすく、心情を考えやすいものだと考えた。

また、千葉市のチームを取り上げることによって、子どもたちとは年代が異なっている、親近感をもつことができるだろうと考えた。さらに、実際に選手たちの苦労や困難なことをどのように乗り越えようとしているのかを聞くことによって、言葉がより現実味を帯び、自分の生活と結び付けやすいのではないかと思う。

○自分の考えを発信しやすくするための話し合いの工夫

自分の考えをもつことができている、自信がないために発表することが難しい、という子どもたちがいる。そこで、自分の考えを3～4人の小グループで話す活動を取り入れる。話を聞いた子は、相づちやうなずきをして聞いたことを肯定的に受け入れ、自分の感想や思いを相手に伝えられるようにしたい。そのような活動を通して、自信をもって自分の考えを発信できるのではないかと考える。また、自分とは異なる考えを聞くことによって、自分の考えを広げたり深めたりする機会としたい。

○様々な視点を持ち、考えを広げるためのウエビングの活用

資料の中に出てくる選手のかっこよさ、すごさはどこにあるのだろうか。目標に向かって努力を惜しまないひたむきさ、挫折を乗り越えた強さ、前向きな考え方など様々なところが挙げられる。しかし、文章にすると一つの視点しか目が向けられない子もいるだろう。そこで、様々な視点から選手のかっこよさやすごさを考えられるように、ウエビングを用いる。単語で感じたことを書き出していく中で、自分の考えが広がっていくであろう。また、文章には表わさなくても、自分の中でつながりや組み立てをもって思考ができる。さらに、少人数の話し合いで友達のウエビングを見て、さらに意見が広がったり深まったりすることができると思う。

6 本時の学習

(1) ねらい

○目標に向かって、希望や勇気をもってくじけずに努力しようとする心情を育てる。

(2) 展開

時配	過程	学習活動 ○主な発問 ・予想される子どもの反応	指導上の留意点	期待される子どもの姿
2	導入	1 前時に立てた、卒業時の理想像や後期の目標を確認する。 ○卒業するときの理想や後期の目	○資料を見る観点を与えるために、前時の活動を思い出させる。	☆前時の活動を思い出し、自分の目標について考えることがで

2		<p>標は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業するときには、学校や友達に感謝の気持ちをもって恩返しできるようにしたい。 ・後期は、委員会活動や掃除を特に頑張りたい。 <p>2 千葉ホークスについての説明を聞く。</p> <p>○困難なことがあっても負けずに頑張っている人たちが、千葉市にいます。千葉ホークスの選手たちの姿を、みなさんにもぜひ知ってもらいたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足が不自由。 ・仕事が終わった後に、チームの練習に参加する。 ・チームの目標は「日本一」 	<p>○展開につなげられるように、障がいがあっても道具を使って自立して生活をしている人がいることをおさえる。</p>	<p>きる。【発表】</p> <p>☆千葉ホークスについて知ることで、資料に関心をもつことができる。【観察】</p>
8	展	<p>2 選手たちの練習風景やインタビューを視聴する。</p> <p>○これから、千葉ホークスの練習の様子と選手のインタビューを見せます。</p> <p>インタビューでは「千葉ホークスとの出会い」や「どんな気持ちで今を生活しているか」を聞いてきました。見たあとに感想を聞くので、考えながら見てください。</p>	<p>○視聴前に DVD の内容を説明したり、観点を与えたりすることで、選手の思いや生き方について意識して視聴できるようにする。</p>	<p>☆選手の思いについて、考えながら視聴できたか。【観察】</p>
3	開	<p>3 映像を見て植木選手の生き方について話し合う。</p> <p>○映像を見て、植木選手についてどんなことを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かっこいいなあ。 ・すごいなあ。 	<p>○主発問につなげられるように、映像を見た直後の感想を聞く。</p>	
8		<p>◎植木選手のどんなところが「かっこいい」「すごい」のでしょうか。</p>	<p>○自分の考えを整理できるように、ウエビングに表現させる。</p>	<p>☆自分の考えをもつことができたか。【ワークシート】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもっている ・努力している ・何があってもあきらめない ・練習がたつらくても練習している ・障がいがあるのに頑張っている 	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな視点から「カッコいい」ところを考えられるように、ウエビングを用いる。 	
9 (7)		<p>【3～4人の少人数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標をもっていて、いつもさらに上を目指しているところがかっこいいと思った。 ・挫折しても、立ち直ってひたむきに頑張っているのがかっこいい。 ・私も同じように考えました。 ・そういうところには気付かなかったから、確かにそうだと思います。 ・ぼくは、少し違う考え方をしました。それは… 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数で話すことによって、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ○友達の考えをより理解できるように、発言後に聞き手が必ず感想や質問をするように声をかけをする。 ○友達の意見で納得したものをワークシートに書き込んで青で囲み、自分の考えを広げられるようにする。 	<p>☆自分の考えを話したり、相手の考えを受けとめたりすることができる。【話し合い】</p>
(2)				
10		<p>【クラス全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって、それを達成するために努力しているところがかっこいい。 ・困難なことを乗り越えた強さがかっこいい。 ・障がいがあるかないかではなく、どんなことがあってもくじけずに目標をもって努力することがかっこいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「障がい者なのに」という言葉が出てきた場合、「障がいをもっている方がしていることだから、カッコいいのかな。」と問う補助発問をし、障がいの有無よりも、選手の生き方について考えられるように助言する。 	<p>☆目標をもって、ひたむきに努力することが、よりよい生き方につながることに気付くことができたか。【話し合い】</p>
3	終末	<p>4 選手のメッセージを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千葉ホークスの方の話を聞いて、自分の生活について考えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分も目標に向かって努力していこうと考えるきっかけになるようなメッセージを流す。 	<p>☆メッセージの内容を考えながら、話を聞くことができたか。【観察】</p>

(3) 板書計画

